

## プレスリリース

本書面は、2011年9月12日にパリにて作成、配布されたプレスリリースの日本語版です。  
英語版と日本語版の内容に齟齬がある場合には、英語版が優先されるものとします。

パリ、2011年9月12日

## 変革を加速

### ソシエテ ジェネラル：確固たる事実

- **GIIPS (ギリシャ、イタリア、アイルランド、ポルトガル及びスペイン)：**  
当グループのソブリンエクスポージャーは 43 億ユーロで、低水準かつ減少傾向にあり対処可能
- **レガシー資産：**  
処理を加速。これまで第3四半期（7月-9月）だけで 35 億ユーロ処理しているが、グループの損益への影響はない
- **短期流動性：**  
ドル建て資金供給の減少は欧州の銀行に影響を及ぼしているが、当グループはこの様な状況にうまく対応している
- **長期流動性：** 2011 年度の計画を 100%完了
- **当グループのユニバーサル・バンキング・モデルは、堅固であり多角的**

### 新たな環境下における、確固たる行動の必要性

- **レバレッジの削減**
  - 当グループ コーポレート&インベストメントバンキング部門 (SGCIB) は今後、規制により影響を受けると予想される事業や他の事業とシナジー効果が期待できない事業は規模を縮小する
  - レガシー資産の処理は、今後もハイピッチに継続する
- **コストの抑制**
  - 特定の国々で大幅な人員削減を現在実施
  - SGCIB の経費を 5%削減
- **事業資産売却により 2013 年までに 40 億ユーロの資本の余裕をもたせ、バーゼル III 規制に基づくコア Tier 1 比率を 100bps 改善**

2013年までに、増資することなく、全面施行されたバーゼル III 規制に基づき、9%を大幅に上回るコア Tier 1 比率を目指す

現在の金融市場における不透明かつ不安定な状況、そして根拠のない噂が銀行全体、特にソシエテ ジェネラルに悪影響を及ぼしている現状を受け、当グループの信用エクスポージャーおよび資金調達に関する最新情報を提供するとともに、生じつつある新たな環境に対応し、当グループの変革を加速するために計画している対策について説明します。

当グループの会長兼最高経営責任者（CEO）であるフレデリック・ウデアは、次のように述べています。「現在のように不確実で時に不合理な環境においては、確固たる事実をきちんと理解することがこれまで以上に必要になります。ソシエテ ジェネラルの基盤は、堅固なものです。GIIPS 諸国のソブリン債務に対するエクスポージャーは低水準であり、最終的なシナリオがどのようなものであれ確実に対処可能です。グループの事業は収益性が高く、流動性の状況は大変良好であり、また株主資本およびソルベンシー水準も同様です。その力強い基盤と、新たな環境が 2011 年夏以降生じつつあるという判断に基づき、当グループは戦略計画の実施を加速し、状況に合わせて修正することを決定しました。それにより、増資することなく、2013 年までにバーゼル III 規制に基づくコア Tier 1 比率の要求事項を満たし、9%を大幅に上回ることができる見込みです」

#### 1. ソシエテ ジェネラルのバランスシートは健全

下記の通りソシエテ ジェネラルは、現在市場で認知されているリスクに対するエクスポージャーがきわめて限定的であり、バランスシートは健全で、強固な流動性バッファーを有しています。

#### GIIPS へのエクスポージャー： 低水準で、減少傾向にあり、対処可能

GIIPS のソブリン債務に対する当グループの銀行勘定におけるエクスポージャーは、低水準で、2011 年 9 月 9 日時点で 43 億ユーロであり、2011 年 7 月に公表された欧州銀行監督機構によるストレステストの結果によれば、他行のエクスポージャーを大きく下回ります。このエクスポージャーは、バランスシートの 1%に満たないものです。

9 月 9 日時点で、GIIPS のソブリン債務に対する当グループの銀行勘定におけるエクスポージャーの市場価格は、簿価を 4 億ユーロ下回っています。したがって、ソシエテ ジェネラルの GIIPS へのソブリンエクスポージャーは、問題ありません。

この総額のうち、ギリシャ国債へのソシエテ ジェネラルのエクスポージャーは 2011 年 9 月 9 日時点で 9 億ユーロであり、償却により 2011 年 6 月より減少しています。2011 年第 2 四

半期に、当グループが保有するギリシャ国債に対して税引き前 3 億 9500 万ユーロの引当金を設定しました。この引当金に基づくと、ギリシャ国債の総残高の額面に対する下落率は 35% です。そして重要な点は、これらの国債で満期が 2020 年を超えるものはないということです。

EU による再建計画の対象となっている他の 2 カ国、アイルランドおよびポルトガルに対するソシエテ ジェネラルのソブリンエクスポージャーは、大きな影響を与えるものではありません。

当グループは、ギリシャを除く GIIPS 諸国においてはリテールバンキング業務を展開していません。非常に困難な経済環境において、ギリシャにおける当グループの子会社は損失を出している状況ですが、これは当グループにとって対処可能なものです。融資ポートフォリオは限定的で (33 億ユーロ)、連結貸借対照表の 1% に満たない額です。融資残高に対する NPL 評価は厳格に行っており、その実施率はすでにギリシャの銀行の中で最高水準の 63% に達しています。

#### **レガシー資産の処理を大幅に加速**

今会計年度初めからこれまでに、当グループはレガシー資産ポートフォリオを 80 億ユーロ削減しましたが、そのうち 43 億ユーロをこれまでの 2011 年第 3 四半期だけで削減しており、処理が大幅に加速していることを示しています。削減額 43 億ユーロのうち 35 億ユーロは、これまでの 2011 年第 3 四半期に処理したもので、グループの P&L に影響を及ぼすものではありません。

2010 年第 4 四半期に着手した RMBS 関連の CDO の処分は続行中で、現在、バーゼル III 規制に基づく自己資本として最大 13 億ユーロを追加できると見込まれます。

昨年 6 月、ソシエテ ジェネラルは、ブラックロック・ソリューションズにレガシー資産に対する四半期ごとの独立評価を委託しました。ブラックロック・ソリューションズによる 2011 年第 2 四半期の銀行勘定の本質価値評価は、ソシエテジェネラルの自己評価を 18 億ユーロ上回るものでした。ブラックロック・ソリューションズは 2011 年第 2 四半期の市場情報に基づいて想定を行っていますが、市場の変動性にもかかわらず、2011 年第 3 四半期も変数に大きな変化は見られないとしています。

#### **ドル建て短期流動性の供給減少に対して順調に対処**

この数カ月間、ソシエテ ジェネラルを含む欧州銀行に対し、米国のマネーマーケットファンドによるドル建て流動性の供給量が減少しています。

重要なことは、この期間、ユーロ建て流動性は常に潤沢でした。当グループはドル建て資金に関し、次のような手段を併用し、ドル建て資金供給の減少に順調に対処しました。

- 1) ドル建てレガシー資産の処理を加速
- 2) 担保付きドル建て資金の利用を拡大(60億ユーロのCMBSのレポ取引および満期6カ月以上のCLOなど)
- 3) ユーロ/ドル建てスワップ
- 4) 市場における短期のポジションの削減

これらの対策を併用することにより、当グループは、2011年6月以降みられたドル建て資金の供給制約を十分に緩和することができました。その結果、当グループは、これまでに無担保の短期市場資金への依存度を低減しています。

その一方で、連邦準備銀行における当グループの余剰短期資金は、6月末の260億ドルから8月末の340億ドルへと増大しました。抵当権の設定されていない流動資産によるバッファは、6月末から1050億ユーロで安定しています。したがって、ソシエテ ジェネラルの適応力は損なわれていません。

#### **2011年度長期資金調達計画を完了**

ソシエテ ジェネラルは、広範囲の投資家を対象にさまざまな通貨建てで多彩な社債関連商品を発行することにより、2011年9月初めの時点で、260億ユーロにのぼる本年度の長期資金調達計画を完了しました。この度の発行は、2010年度の発行に比べると長期借入金の平均満期が長いにもかかわらず、当グループのCDSスプレッドを下回る有利なスプレッドで達成することができました。

2012年度の発行計画について言えば、2012年度の資金ニーズは、貸借対照表のレバレッジ解消を継続することにより軽減されるものであると、当グループは引き続き確信しています。

## **2. 当グループのユニバーサル・バンキング・モデルは堅固かつ多角的**

2007年度以降いずれの会計年度においても、ソシエテジェネラルは、金融危機の厳しい影響にもかかわらず、良好な業績をあげてきました。ソシエテジェネラルの株主資本は406億ユーロに達し、2007年から2倍近くに増加しました。

このモデルの強みは、3つの支柱、そしてそれらと相乗効果を発揮する2つの事業に基づくものです。

## フランス国内ネットワーク

フランスでは、健全でリスクの低い市場で営業を行っており、収益規模で国内第 3 位のネットワークを展開しています。

2011 年上半期は活発な取引が見られ、預金総額が 12.7%という顕著な伸びを示したほか、生命保険による収入が市場で優れた業績をあげました。

2011 年上半期と 2010 年上半期を比べると、収益は 5.5%、純利益への寄与は 24.5%拡大し、他行をはるかに上回りました。

## 国際リテールバンキング

国際リテールバンキングでは、近頃チェコ共和国とルーマニアの国債格付けがそれぞれ AA<sup>1</sup>と BBB<sup>2</sup>に見直されたことに示されるように、成長可能性と健全な経済見通しを備えた（政府債務/GDP 比率が先進国を大きく下回る）国において、経営の多角化に力を入れています。チェコ共和国では国内最大のフランチャイズを展開し、収益に顕著かつ継続的に寄与しています。ロシアでは、新たに買収した子会社が始動しており、経済の急成長を受けて個人顧客への順調な融資拡大（2011 年上半期は 2010 年上半期より 10%増）という機会を生かしています。2000 人の人員削減による合併の相乗効果は、2012 年にその成果が現れると見込まれます。ルーマニアでは、2011 年第 2 四半期に業績が回復し、コスト削減努力が功を奏しており、リスク費用は 2011 年下半期に改善すると見込まれます。地中海沿岸地域では、収益は 2011 年上半期中に回復を見せ（2010 年上半期より 6%増）、いくつかの国で政治的変動という背景があったにもかかわらず、収益性は非常に良好でした。

## コーポレート&インベストメントバンキング

コーポレート&インベストメントバンキング業務は、当グループの純利益に安定して貢献しており、金融危機以前の水準と比べるとリスクプロファイルを大幅に削減しています。2011 年上半期には、当グループの純利益に 10 億ユーロを超える貢献をしました。SGCIB の費用/収入比率は、2011 年上半期には 60%で、業界でも最も低い水準です。SGCIB の中核事業基盤（エクイティデリバティブ、天然資源、インフラ、エクスポートファイナンス、ならびに EMEA の顧客および市場）は、健全で、主導的地位を占めています。また、手数料ベースのインベストメントバンキング業務に投資し、より高度な債券商品を提供し、資産配分能力を拡大することによって、今後いっそう進む銀行離れへの準備を開始しています。このような変革は、環境の構造的変化に対応して、今後さらに加速するでしょう。

### 3. 変革を加速する確固たる行動

先進国では、制約付予算政策を踏まえ、マクロ経済成長に関する不透明性は当面の間残ると思われます。特に資金調達、すべての銀行にとって不十分であり、費用のかかるものとなるでしょう。この新たなグローバルな環境において、銀行は、ソシエテ ジェネラルも含め、その戦略を状況に合わせて適応する必要があります。だからこそ当グループは、2010年6月に発表した変革計画「アンビション SG2015」を加速し、実行します。

#### 当グループのレバレッジ削減策

- コーポレート&インベストメントバンキングでは、規制による影響を受ける事業またはシナジー効果の可能性が低い事業の規模を縮小し、最終的には費用をさらに削減
- レガシー資産の処理は、今後もハイピッチで継続

#### 当グループの厳格なコスト抑制策

- 特定の国々で大幅な人員削減を現在実施
- コーポレート&インベストメントバンキングにおいて、コストベースの5%削減計画を実施

当グループは、2013年までの事業資産売却により40億ユーロの資本の余裕をもたせ、バーゼルIII規制に基づくコア Tier 1 比率を100bps改善します。

結論として、以上のレバレッジ解消策を踏まえ、当グループは2013年までに、増資することなく、全面施行されたバーゼルIII規制コア TIER 1 比率9% を大幅に上回ることを目指します。

#### ソシエテ ジェネラル

ソシエテ ジェネラルは、ユーロ圏最大級の金融サービスグループです。多角的なユニバーサル バンキング モデルに基づき、グループは財務の堅実性と持続可能な成長を維持する戦略を兼ね備えています。また、当グループは市場において信頼が高く、お客さまの立場に立ち、社員一人一人の質とコミットメントでお客さまから選ばれるような金融機関となることを主眼としています。

全世界85カ国の拠点に在籍する157,000名の従業員\*が世界中の3,300万名を超えるお客さまのパートナーとして日々の業務を行っています。また、ソシエテ ジェネラルの各部門は以下の3つの主力業務を通じて個人、企業および機関投資家向けにサービスと助言を提供しています。

- ・ ソシエテ ジェネラルの支店のネットワーク、クレディ デュノール、ブルソラマを通じて展開するフランス国内のリテールバンキング
- ・ 中欧・東欧、ロシア、地中海沿岸諸国、サハラ以南のアフリカ、アジア、フランス国外領土に拠点を置く国際リテールバンキング

・インベストメントバンキング、ファイナンス、マーケット業務における世界的な専門性に基づくコーポレート&インベストメントバンキング

ソシエテ ジェネラルは、専門金融サービス、保険、プライベートバンキング、アセットマネジメント、セキュリティーズサービスの主力金融機関でもあります。

ソシエテ ジェネラルは、社会的責任投資指数の構成銘柄に採用されています：FTSE4Good, ASPI

[www.societegenerale.com](http://www.societegenerale.com)

*\*クレディ デュノールが2010年9月に買収したソシエテ マルセイエーズ ドゥ クレディの従業員を含む*

**本リリースの配布先：**

ソシエテ ジェネラル証券会社 東京支店

小河原 愛

[ai.ogawara@sgcib.com](mailto:ai.ogawara@sgcib.com)

Tel + 81 3 5549 5580